

# 高松南ロータリークラブ特報



R.I. 会長 レイ・クリングスミス 会長 田中 弘之 幹事 上村 光男

---

## 五大奉仕部門(標準クラブ定款第5条)

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動の哲学的および実際的な規準である。

1. 奉仕の第一部門である**クラブ奉仕**は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。
2. 奉仕の第二部門である**職業奉仕**は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。
3. 奉仕の第三部門である**社会奉仕**は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。
4. 奉仕の第四部門である**国際奉仕**は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。
5. 奉仕の第五部門である**新世代奉仕**は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。

## 出席委員会 大橋泰範委員長より「例会出席の大切さ」提言

- ・各会員は、クラブ例会に出席しよう！（義務のひとつになっています！！）
- ・例会は基本的に週1回開催されます（時間は1時間）
- ・例会の前半30分は、親睦を深める時間となっています。後半30分は奉仕について勉強する時間となっています。
- ・例会を楽しく喜んで参加できるように各会員が考えるようにしましょう！（クラブサービスの第1歩です）
- ・ロータリーの例会は、人生道場であると言われた方がいます（日本ロータリーの創始者 米山梅吉氏）
- ・例会で自己研鑽、切磋琢磨、自分を磨き輝かせましょう！
- ・会員それぞれが職業を通じて、地域社会に広く貢献していきましょう！

## 鎌倉芳太郎顕彰碑の建立

記念碑の建立については、2008 - 9年度国際ロータリー第2670地区の豊田章二ガバナーが、鎌倉芳太郎顕彰会創立とともに参加し、様々な形での支援を続けてきました。そして2009年高松市で開催した地区大会前日に那覇南ロータリークラブと高松南ロータリークラブとの間で友好クラブ協定が結ばれ以来毎年交流が続いています。

### 顕彰碑を生誕地三木町に建立 2010.10.24(sun)-



首里城の再興や型絵染めの人間国宝鎌倉芳太郎の顕彰碑の除幕式が2010年10月24日、生誕地の香川県木田郡三木町の山大寺池堤防で行われ、豊田章二パストガバナーや田中弘之会長、上村光男幹事ら高松南ロータリークラブ会員も多数参列しました。生家を見渡せる堤防上に鎌倉芳太郎顕彰会が約2年掛けて準備して建立にこぎつけたもので、佃昌道会長が「香川の生んだ偉大な先駆者を顕彰し、その業績を長く後世に伝えたい」と挨拶、梅原利之香川県観光協会会長や津森明高松市歴史民俗協会会長ら参列者およそ30名が見守る中、紅白の綱を引き除幕しました。

顕彰碑は高さ1尺5.5匁、幅1尺3.0匁、奥行き3.0匁の庵治石で「鎌倉芳太郎顕彰碑」と大書し、下側に津森明会員による撰文が次のように刻まれています。

「鎌倉芳太郎は明治三十一年に香川県木田郡三木町氷上に生まれ香川師範学校、東京美術学校図画師範科に学んだ。大正十年卒業と同時に沖縄県女子師範学校、沖縄県立第一高等女学校教諭併任となった。芳太郎にとり琉球列島の風土、景観全てが珍しく当時出始めた写真機を使い風物を撮影、沖縄伝統の紅型にも興味を持ち、研究を重ねて新境地を開く。また首里城を撤去し沖縄神社を作る内務省方針を知った芳太郎が建築家の東京帝国大学教授伊東忠太に連絡、今日の城郭が残り史跡天然記念物に指定された。戦火で破壊された城跡などの再建には芳太郎の記録がなければありえなかった。沖縄諸島の写真だけでも千数百枚もあり見聞きした風物などを細かく記録した帳面は八十冊に及び各地で遺宝を見つけた。のちに東京美術学校助教授となり多くの資料、物品を東京に保管、これらの貴重な資料が戦火を免れた。沖縄研究は多岐

にわたり昭和四十八年に重要無形文化財保持者に認定され沖縄県立芸術大学に研究資料が収蔵されている。  
昭和五十八年に逝去。今回顕彰会設立を記念に石碑を建立する

平成二十二年十月建立

鎌倉芳太郎顕彰会 題字 植村青嵐」

芳太郎は大正10年東京美術学校（東京芸大）卒業と同時に沖縄県女子師範、県立第一高女に教諭として赴任、沖縄文化に興味を持ち研究、教諭としての僅か2年間に、見聞きした記録（鎌倉ノート）や写真など膨大な資料が残されました。これらが第二次世界大戦の戦火で破壊された城跡の再建と型絵染め（紅型）の復興に尽くすこととなりました。特に紅型については以前から“紅型を継承するのは沖縄の人であり、それ以外の誰でもない。結局私は本土からの旅人であり、そこに日本人としての新しい心象の世界を表現しなければならない”として自らは研究者から紅型の製作者に転身、沖縄紅型とは違った分野で活躍し、人間国宝まで上りつめました。

この日顕彰碑除幕記念として、氷上小学校の図工教室で三木町内の親子を対象に型絵染めの体験学習講座が高松大学准教授の小西博子さんの指導で開かれて、型染め作品の作成に挑戦し、予定時間をオーバーして熱心に制作を続ける光景も見られました。

また佃会長が、「三木町の偉人、鎌倉芳太郎を顕彰」と題して記念講演しました。



#### 【参考】 紅型(びんがた)

琉球びんがたは、沖縄の自然豊かな色彩を表現するかのよう鮮やかで美しい染物です。起源は明確ではありませんが、14～15世紀頃の海外貿易により中国、インド、ジャワの更紗(さらさ)等から染色技術が伝えられたといわれています。

琉球びんがたの技法は、2種類あり、**型染**と**筒描き**が用いられます。型紙と筒描きを糊防染し、その上から顔料(鉱物)と植物染料で色差しをします。型染は、主に衣装類を染めるときに使われ、筒描きは、風呂敷や琉球舞踊の舞台幕に使われることが多いです。

## 平成22年度夏季集中研修会実施報告(概要)

香川県ひまわり親の会・香川県動作法研究会共催の夏季集中研修会の報告です。

この夏季集中研修会には、県内の養護学校や小・中学校に通う障害のある子どもたちが多数参加しています。また、近年では学校の教員以外にも、福祉施設の職員の参加が増えてきており、障害のある人たちを支援する者の研修の場として広がってきています。

### 身体 の 学 習 集 中 研 修 会

「運動・動作学習班」では、身体のより良い使い方や動かし方を学んだり、トレーナーと一緒に身体を動かすことで豊かなコミュニケーション体験(共有体験)を積んだりします。

「静的弛緩学習班」では、身体を大きく動かすことなく、触れることで身体をゆるめていきます。姿勢をとったり、身体を大きく動かすことが困難な子どもでも取り組みやすい学習法です。

4日間の学習では、2つの班とも、身体の状態や、現在の生活などを総合して考えられたねらいを設定し、取り組んでいきました。ねらいには、「楽な姿勢がとれるようにする」「姿勢のバリエーションを増やしていく」「身体の筋緊張をゆるめていき、リラックスできることで情緒の安定を目指す」などがありました。

### 感 覚 運 動 学 習 集 中 研 修 会

神経学的な感覚運動発達の見点から遊具などの事物や、他者あるいは自分の身体とのより豊かなかかわり方を学習する。

従来『感覚運動指導研修会』を『感覚運動研修会』にリニューアルしました。各事業所や小中学校等多職種のトレーナー参加者のニーズに広く対応できるようトレーナー研修の時間を設定しました。トレーナーの事前学習の後、元気いっぱいの子どもたちを迎えたこの試みは大変好評でした。

厳しい暑さの中、支援いただいた飲料類の水分補給で、脱水症状や熱中症も出さず全員元気に研修を乗り切れました。

### 余 暇 活 動 集 中 研 修 会

「おもちゃで遊ぼう班」では、いろいろなスイッチを使っておもちゃ等を操作したり、いろいろな遊びを楽しむなかで興味の幅を広げたり、自分から何かに働きかけていく体験をする。

「ウイッシュ班」では、自分の希望する活動を立案・計画し、それに沿って実際にボランティアヘルパーと校外で活動することによって、社会経験や行動範囲を広げる。

「プール活動班」水の浮力を利用して、体をリラックスしたり動きを引き出したりします。

今回はアドバイザーに作業療養士を招くことができ、教育機関と医療機関との連携が図れ、研修会の質を高められた。また、外出の経験を積み重ねることで、自分から情報を手して、考え、行動できるように育ててほしい。プール活動では、水中で活動することの楽しさを体感した。

### 第 1 2 回 高 松 ひ ま わ り キ ャ ン プ

日本リハビリテーション心理学会が認定するキャンプです。動作学習では、トレーナーが自分で動かすことのできる部分を見出し、自ら調整する課題が多く、そのことによって自分のできることの再確認になり、日々の生活に張りを持つことができます。集団活動では、風船バレーやろうけつ染や絞り染め等を楽しみました。生活場面では、毎食変化のある食事メニューを保護者の方々が工夫して用意してくれました。

以上です。